

## 「解字」は漢字学習を格段に面白くする

漢字の成り立ち方を解きあかすことを「<sup>かいじ</sup>解字」といいます。この方法で漢字を学ぶと、子供はもちろん、漢字はどちらかという苦手だという大人でも、一つひとつの漢字がもつ意味や情報がとてもよくわかってきます。漢字を知ることが、こんなに楽しいことだったのかと驚かれるにちがいありません。それによって、漢字とより印象深く、より味わい深く、かかわることができるようになるだろうと思います。

たとえば、すでに紹介した「雪」という漢字を思いだしてみてください。子供がこの漢字を教えてもらうときに、こんな方法だったら、しっかり記憶することができるに違いありません。

「この字は、“雨”と“（手を表す）”とを組み合わせでできているでしょ。『手にのるようになった雨』って、さて何でしょうか」「そうです、『雪』です」と、なぞなぞ遊びにするのです。楽しいとなったら、子供は貪欲です。さらに、他の漢字もたくさん知りたがるでしょう。

「じゃあ、この『雷』って字は、どうなっていると思う」「“雨”と“田”の組み合わせよね。この“田”は、“太鼓”を表しているの。『雨のときに太鼓を鳴らすもの』って、さて何でしょう」「その通り、『雷(神鳴り)』よね」

「では、『雷』の下に、“L”が付いた字は何と読むでしょう」「ヒントは、“L”はいなびかりを表します」「そう、“電光”の“電”です」

こういう話をしますと、お母さんやお父さんがまず、「漢字って、こんなに面白いものだったんですね」と感に堪えない声をあげます。ところが、これまでの学校教育では、漢字というものが丸暗記一辺倒、それも丸暗記力が低下してから詰め込むという、つまらない教え方をつづけてきたので、いまの子供にとっても、さらには昔子供だった大人にとっても漢字がつまらなくて、苦手なものになっているのは仕方のないことかもしれません。

このように、私たち親自身が解字の教育をきちんと受けてきていませんから、この本を読んで漢字の楽しさがわかっていただけたら、ぜひ親子いっしょに学習してもらうのがいいと思います。2章には、解字の楽しさがよくわかる漢字を選びすぐって紹介してあります。まず、お父さん、お母さんが漢字の楽しさを味わってみてください。それは必ず、子供にも伝わっていくものです。

小学校で学習する学年別配当漢字すべての解字が知りたいという方には、私が著した『楽しい漢字教室』(ぎょうせい刊)などをひもってもらおうといいと思います。この石井式の漢字辞典を家族の集まる場所に置いて、「この字はどういう成り立ちだろうか」といった疑問を持ったときに、すぐに開けるようにしておくとう便利でしょう。漫画を読むように読んでほしいと思って、できるだけ興味深く説明してありますから、“読み物”として読むのもいいと思います。